

もやい 29年度 第14回定例会議事録

日 時 :1月13日(金) 15:00～17:00

場 所 : 市民活動支援センター活性化室

出席者 : 田中、大福、石見、植村、添田、廣川、久保田 (欠 平井、石田、浅野)

添付資料

①西武信金 助成金申請書

②WAM(福祉医療機構) 助成金申請書・予算書

【1】助成金申請について

- (1) 西武信用金庫助成金(申請済)
- (2) WAM(福祉医療機構)
- (3) 赤い羽根福祉基金

【2】八王子市社会福祉審議会 市民委員への応募

- (1)地域福祉分科会市民委員 添田さん
- (2)高齢者福祉分科会市民委員 田中さん
- (3)児童福祉分科会市民委員 大福

【3】市役所・社協・その他 との支援に関する情報交換について

- ①社協との継続した情報交換を行う
- ②ディサービス団体
- ③長寿社会を考える会(移動困難者の旅行支援)
- ④生活自立支援課(小澤部長)との情報交換

【4】もやいの活動について順次整備する

- ①会員の募集(団体会員 5～10 団体、個人 10～30 人)
- ②法人案内チラシ、法人シンボルマーク、入会案内、もやい封筒など
- ③もやいクラウドストレージの利用について(OneDrive)
- ④もやい勉強会
 - ・移動支援について(島津先生)
 - ・多職種連携について(数井先生)
 - ・送迎に関する保険制度について(東京海上日動火災保険㈱)

【5】その他

- ① 総会の日程 5月17日(木) 15:00～ 支援センター
理事会 2月9日(15～ 交流スペース (年3回開催)
- ② 八王子共生社会推進会議 重要書類台帳管理
- ③ もやい事業の具体化について(財源の確保)

<次回定例会>

日時: 平成 30 年1月12(金) 15:00~17:00

場所: 市民活動支援センター 活性化室

以上

新聞記事(読売新聞 30/01/10)

宅配・飲食も自動運転で

【ラスベガス（米ネバダ州）】有光色「トヨタ自動車」は8日、宅配や飲食など様々な移動サービスを提供する自動運転の試作電気自動車（EV）「eパレット」を発表した。米インターネッツ通販大手アマゾン・ドットコムなどと提携し、2020年代前半に米国で実証実験を始める。

世界最大の家電見本市「CES」の開幕に先駆け、eパレットは全長約4.7メートルの3種類の箱形EVで、移動式の小売店や車内泊、宅配などを想定した設備を搭載できる。アマゾンや米ピザハット、ウーバー・テクノロジーズなどの提携先とは、車両やサービスの開発を共同で行う。マツダの小型エンジンを発電用に使ったことも検討

トヨタ、アマゾンなどと実験へ

トヨタはクルマを動かす基本プログラムも公開し、他の企業が開発した自動運転システムを搭載できるようにする。トヨタの豊田章男社長は発表会で「私はトヨタを、自動車会社を超え、人々の様々な移動を助ける会社に変えることを決意した」と強調した。独タイムラーなどの欧米自動車大手している。

トヨタは自動運転EVを使い、様々な企業とサービスを提供する。

EVを共同開発「マツダ」

トヨタ

車両を提供し、共同で実証実験

- 移動オフィス
- 医療
- 物販
- ホテル
- ライドシェア
- 飲食
- 宅配

アマゾン
米ピザハット
中海海出行
米ウーバー



自動車に乗っていた女子高生2人をはねた乗用車（9日午前9時30分、前橋市北代田町で）

85歳「気づいたら事故」

前橋、容疑で逮捕 女子高生2人重体

9日午前8時25分頃、前1年生の太田さくらさん（16）。現場は、歩道のない橋北代田町の県道で、白（16）片側1車線の直線道路で、転車で登校していた女子高生2人が、乗用車にはねられた。2人は、意識不明の重体。前橋署は同日、乗用車を運転していた同市下細井町、無職川端清勝容疑者（85）を自動車運転死傷行為処罰法違反（過失運転致傷）の疑いで逮捕した。

発表によると、2人は、いずれも市立前橋高校の3年生大嶋実来さん（18）と、

川端容疑者の息子（56）によると、川端容疑者は認知機能検査を経て昨年10月に免許を更新。「壁をこするなどの小さな事故を何度も起こしていたため、免許を返納するよう家族で促していた」と話した。

外部からのミス指摘
文科省「阪大に電話」
記録残さず

野島のタオ
東京・日本橋馬喰町の六
(3662)6991

始業式へ通学中

助成金要望額調書

団体名 特定非営利活動法人八王子共生社会推進会議

① 助成対象事業を実施するための費用

科目	金額(円)	内訳
謝金 ※1人1回(日)あたり15,700円が助成金負担上限額です。上限額を超える部分は、日その他の経費で計上してください。	285,000	研修会・講習会出前講座 講師謝金 10,000円×14人 出前講座 5,000円×2人×5回 研修会・講習会運営謝金 5,000円×5人×5回
旅費	275,600	定例会旅費 1,000円×10人×20回 講師旅費 1,200円×13人、出前講座 1,200円×4人×5回 打合せ旅費 1,200円×5人×10回
所費合計	966,000	
賃金 ※アルバイト雇用の者	300,000	全体事務 3人×1,000円×10時間×10ヶ月
家賃	0	
光熱水費	0	
備品購入費 ※単価10万円以上のものが該当します。単価30万円以上の備品購入は、別紙「備品購入理由書」を提出してください。	112,000	講習会用プロジェクター (エプソン EB-W05C9 71,000円) プロジェクター カバン 6,000円 卓上製本機 とじ太くん 3000型 28,000円 ラベルプリンター テブラPRO SR150RP 7,000円
消耗品費	35,000	プリンターインク、用紙、事務用品 テブラ リボン 5,000円
借料損料	35,000	会場費 7,000円×5回
印刷製本費	226,000	運転講習テキスト 500円×100部 研修会資料 800円×50部、勉強会テキスト 300円×50部 報告書 1,000円×100部、出前講座テキスト 300円×70部
通信運搬費	10,000	関係者への郵便・送料
委託費 ※C総事業費に対する委託費の割合が、50%以上の場合、WAM助成事業の対象外となります。		
雑役務費	248,000	会議費 800円×6人×10回(お茶代) 講習会テキスト作成料 200,000円(外部委託:ケアセンター八王子)
保険料	0	
A 助成対象費用の合計	1,526,600	

B その他の費用 (助成金の対象外費用と、 その他自己資金で賄う費用の合計)		
---	--	--

C 総事業費 (A+B)	1,526,600
---------------------	-----------

② 助成対象事業にかかる収入(=自己資金)

※一定程度の自己資金を盛り込んだ資金計画としてください。

収入種類	金額(円)	内訳
参加費収入 ※参加費、利用料など、この助成事業において発生する収益の内訳を記載してください。	30,000	講習会受講料(資料代) 5,000円×30人
寄付金・協賛金収入 ※この助成事業に使用を指定された場合のみ、内訳に■企業から〇〇円、個人から〇〇円というように記載してください。	30,000	寄付金 個人 5,000円×6人
一般会計繰入金 ※自己資金		
D 収入合計	60,000	

③ 助成金額の算定

C 総事業費 - D 収入合計 = 1,466,600 円 → 千円未満切り捨て → 1,466 千円

下記の金額が助成金要望額となります。ただし、500千円以上、20,000千円以下としてください。

平成30年度社会福祉振興助成事業要望書

3. 現状と課題

助成事業の背景にある現状と課題	※：支援対象者や地域社会の課題の原因や解決策を踏まえて記載してください
	<p>【背景の現状】</p> <p>超高齢化社会となり、高齢者は地域での支え合い活動が必要な状況にあります。また障害者・子育て支援も地域で支える新たな状況を迎つつあります。</p> <p>さらに在宅医療の推進や、移動困難な高齢者が車を運転して重大事故も多発しています。厚生労働省は「地域包括ケアシステム」、「地域共生社会」を構築し、それらへの対応を提案しています。</p> <p>【取り組む課題】</p> <p>地域共生社会はお互いが「互助の気持ち」を大切に、小さな親切の積み重ねで実現が可能と考えられます。しかしながら「小さな親切は時には大きな迷惑」となりかねません。この迷惑を避けるには、誰もが納得できるルールが必要です。</p> <p>特に生活に密着した親切は継続的な活動であり、このルール作りは必須です。このルールを行政関係・活動支援者・一般市民が知恵を出し合って作り、関係者の皆さんに理解して貰うことが必要です。</p> <p>これは活動に関わる方を育成・支援することです。</p>

4. 事業計画

応募事業について	■ 応募事業の位置づけ（該当するものに○を入れてください。複数選択可）					
	<input type="radio"/>	新たな取り組み	<input type="checkbox"/>	既存事業の充実	<input type="radio"/>	取り組みの普及
	対象者や分野等を横断する取り組み（どのような横断を行うのか、他の説明項目で分かるようにしてください）					
	上記以外の取り組み（どのような位置づけなのか、他の説明項目で分かるようにしてください）					
単年度の事業目標	<p><実施目標> ※（例）柱① 研修会目標：参加者80名、柱② 居場所開催目標：週3回/利用者のべ900名</p> <p>柱①生活支援・移動支援に関する勉強会 2回 行政、包括、学識経験者、団体幹部が一堂に会し、課題やその解決の可能性について議論し、講習内容等を詰める(ルール作り)</p> <p>柱②生活支援・移動支援に関する出前講座 5回 各地域で活動している団体の会合に参加し、安心・安全の重要性を説明するとともに、講習参加者を募る(ルールの啓蒙活動)</p> <p>柱③ボランティア安心・安全運転者育成講習会 3回 柱④ボランティア安心・安全運転活動者育成数 30人</p> <p><成果目標> ※ 実施目標の達成による成果（対象者や地域社会の変化）及び変化の確認方法（指標・測定方法等）</p> <p>生活支援活動を現在行っている団体で活動する人たちが、安心して支援を行うためのノーハーを指導し、地域共生社会確立に貢献するための意識を変えたい。</p>					

<p>助成終了後の展望及び事業継続に関する計画</p>	<p><終了後の展望> ※ 本事業の実施により、中期的に達成したい目標・対象者や地域社会に期待される効果 八王子市社会福祉協会によると、地域で活動したいと考える人たちは増加傾向にあり、その受け入れ態勢は大切であり、本事業を継続的に進めることにより、活動人口が増え、地域の活性化が期待できる。</p> <p><事業継続に関する計画> ※ 助成事業終了後の事業継続に向けた体制（資金や人材の確保等） 2～3年くらいは助成金を期待したいが、今後はある程度自己資金を出しても活動する人が増えると思われるので、講習会（生活支援、移動・送迎支援）等の有料化を考える。</p>			
<p>連携団体 (予定)</p>	<p>連携団体名及び役割</p>		<p>(いずれかに○を入れてください)</p>	
	<p>社会福祉法人八王子市社会福祉協議会</p>	<p>○</p>	<p>新規</p>	<p>既存</p>
	<p>桜美林大学 社会福祉教授 島津 淳</p>	<p>○</p>	<p>新規</p>	<p>既存</p>
	<p>八王子市第1層生活支援コーディネーター 林 一矢</p>	<p>○</p>	<p>新規</p>	<p>既存</p>
	<p>特定非営利活動法人八王子市民活動協議会</p>	<p>○</p>	<p>新規</p>	<p>既存</p>
	<p>特定非営利活動法人八王子市民のための医療と介護連携協議会</p>	<p>○</p>	<p>新規</p>	<p>既存</p>
	<p>特定非営利活動法人ケアセンター八王子</p>	<p>○</p>	<p>新規</p>	<p>既存</p>
	<p>医療経済研究機構研究部研究員 服部真治</p>	<p>○</p>	<p>新規</p>	<p>既存</p>
<p>具体的な事業内容</p> <p>(例) 1 柱立て名称 ①目的 ②内容 ③日時 ④場所 ⑤対象者 ⑥実施体制</p>	<p>【事業内容】 地域共生社会の確立は、行政と一般市民とが一緒に活動（協働）することが必要です。安心・安全には多くのルールや規則があります。 人と人が触れ合うときには接遇の問題、生活支援をするときには生活支援に関する基本知識、車を使用するときには交通ルールは勿論、事故への対応や保険の知識、これらをあまり専門的に扱うのではなく、支援上最小限必要な知識を総合的にまとめた講習会を行い、安心した支援体制の確立を目指します。 生活支援に関するルールや、送迎支援に関する法律は各種の条令など、行政との連携は必須です。常に情報交換しながら進行します。</p> <p>1、柱立て名称 「移動支援による、地域共生社会の確立」</p> <p>①目的 地域共生社会の確立 高齢者・障害者の外出機会の減少は肉体的・精神的な衰えが進みます。外出機会を増やすことは、生きがいと健康年齢の延長に貢献します。安心・安全を確保した移動支援により、明るく・いきいきした街づくりを達成します。</p> <p>②内容 外出支援のための安心・安全に関するルール作りと、講習会等による啓蒙活動、支援者の育成と支援に関わる事業です。 (内容：接遇の基本的知識、事故対応や保険（保障問題）などの専門知識、送迎支援に関する知識、在宅医療の現状 など)</p>			

- ・研修会・講習会開催の為のパンフレットの作成
- ・活動者・一般市民への移動（送迎）支援に関する解説書
- ・研修会・講習会は八王子市内公的研修施設

③日時

平成30年

4月、7月 生活支援・移動支援に関する勉強会 2回

5月～11月 生活支援・移動支援に関する出前講座 5回

5月 ボランティア安全運転講習会用パンフレット作製・配布

8、10、12月 ボランティア生活支援・移動支援（送迎支援）に関する講習会
各回10人、受講料（資料代）500円

（私どもの団体にはこれらを行うための講師資格者が複数在籍）

31年3月 事業報告書の作成

④場所

・定例打ち合わせは八王子市市民活動支援センター

・活動者への説明は現地の集会所

・研修会・講習会は八王子市内公的研修施設

（東京労政会館、八王子市市民活動支援センター、クリエイトホールなどを予定）

⑤対象者

・生活支援・移動支援（送迎支援）に関する研修会

行政・包括支援センター、支援活動者、一般市民

・啓蒙活動

現在支援活動を行っている団体及び一般市民

・ボランティア生活支援・移動支援（送迎支援）に関する講習会

ボランティアで生活支援活動をしている団体、移送支援事業者および一般市民

⑥実施体制

・八王共生社会推進会議会員および一般市民

・八王子市社会福祉協議会等の連携団体スタッフ

●成果報告書（作成必須）

（部数 100部 / 配布・掲載先 行政、社協、包括支援センター、活動団体、業者、一般市民 など）

※成果のとりまとめ、普及の方法（該当方法に○を入れてください。複数選択可）

<input type="checkbox"/>	SNS等での発信	<input type="checkbox"/>	団体ホームページでの事業や成果の公表
<input type="checkbox"/>	成果報告会の開催	<input type="checkbox"/>	その他（ ）

**平成 29 年度 第 5 回「西武街づくり活動助成金」
 (「街づくり定期預金」with 日本財団) 助成金申請書 概要**

団体の活動実績	<p>○ 28年度まで、我々の会員は八王子市民活動協議会に於いて、絆グループを結成し福祉関連の活動を行ってきた。(生き生きハンドブックの作製とその普及活動など:福祉医療機構助成事業) 実際の活動は中間支援組織ではなく、直接市民へ働きかける事業であるため、新組織(NPO 法人)を設立した。</p> <p>○ 29年7月～9月まで9回、大横保健福祉センターに於いて「まちなか避暑地(能書きサロン)」を開催し、八王子市の福祉問題について話し合いを行った。(参加者:合計160人)</p> <p>○ 29年9月24日 八王子市民活動協議会主催のシンポジウム「明日の地域福祉を考えよう！」に協力し、移動支援に関する体制整備事業を行った (於:八王子市子安市民センター)</p> <p>○ 29年10月～12月まで5回 内部勉強会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/27 社会保障の仕組み、移動支援関連法規概要 ・11/ 2 地域で暮らし続けるために、移動支援事方・法など ・11/16 多職種連携の在り方、移動支援事例研究 ・11/30 総合事業・多様なサービス、移動支援の課題 <p>12/14 「我がごと」・「丸ごと」とは、(自由討論)</p> <p>この勉強会には高齢者あんしん相談センター、八王子市社会福祉協議会の担当者も参加した。</p> <p>29年は新しいテーマ「地域共生社会の確立」に挑戦するため、移動支援の運営の仕方など、準備作業を行ってきた。</p>
---------	---

3. 本助成事業について

事業名/プロジェクト名	ボランティア安全運転手育成事業		
総事業費	38万円	助成申請額	30万円
事業区分 (該当する番号 すべてに○)	① 講演会・イベント等の開催 ② 調査・マーケティング活動等の実施 ③ パンフレット・チラシ等印刷物の作成 ④ その他(移動支援を安全・安心にできる環境の整備)		
事業目的	高齢者・障害者は移動手段が少なく、外出がする機会が失われつつあります。 この外出困難者の移動(送迎)支援を行うため、ボランティア安心・安全運転手の育成を行う事業です。		
実施期間(予定)	平成 30年 2 月 ～ 平成 30 年 8 月		
事業内容	高齢者・障害者の外出機会の減少は肉体的・精神的な衰えが進みます。外出機会を増やすことは、生きがいと健康年齢の増進に		

	<p>貢献します。しかし、外出支援には「安心・安全」は必須です。 安心・安全での移動支援には、接遇をはじめ生活支援に関する基本的知識(ヘルパーに準じる)が必要です。 また送迎サービスを行うには、事故対応や保険(保障問題)などの専門知識も必要です。 本事業はこの2つの課題を取り入れた、講習会の実施です。 (運転免許返納者への支援も含む)</p> <p>30年2月 ボランティア安全運転講習会用パンフレット作製・配布 4, 6, 8月 安全ボランティア運転講習会(3回) 各回10人、受講料(資料代)500円 3~8月 関係部門との情報交換 8月 事業報告書の作成 (私どもの団体にはこれらを行うための講師資格者が複数在籍)</p>
--	--

5. 収支予算

		費目	金額(円)	備考
収入の部		助成申請額	300,000 円	
		受講料	15,000 円	500円×30人
		自己負担額	65,000 円	
			円	
		合計	380,000 円	
支出の部		費目	金額(円)	内訳・単価等
		講師謝金	30,000 円	5,000 円×2人×3回
		賃借費	21,000 円	会場費 7,000 円×3回
		広告宣伝費	30,000 円	パンフレット 2,000 枚
		通信費	10,000 円	受講者募集郵送料など
		備品費	40,000 円	プリンターインク、用紙、事務用品
		交通費	66,000 円	1,100 円×6人×10回(打合せ会議他)
		人件費	90,000 円	1,000 円×3人×30時間(セミナー準備)
		人件費	45,000 円	3,000 円×5人×3回(セミナー当日謝金)
		印刷費	24,000 円	テキスト印刷(10 円×40 ページ×60 冊)
		人件費	20,000 円	1,000 円×12 時間(関係者用報告書作成)
		印刷費	4,000 円	報告書印刷(10 円×20 ページ×20 冊)
			円	
			円	
	合計	380,000 円		

以上

* 助成金が決めた時は、不足分(自己負担額)を寄付金等で補てんします。